

体験談レポート

ユーザー： T.Mさん(30代・男性) 北海道
商品名： ニュウモラップジャケット
テスト日時： 2009年9月20,21日
アクティビティ： 登山(トムラウシ山～ヒサゴ沼)
テスト環境： 晴れ 5
標高 965m ~ 2141m
当日のレイヤリング： ニュウモラップ、ドラウトセンサー、他社
ロングスリーブシャツ、フラッドラッシュ
スキンメッシュ ボトム：ストームゴージャ
リアルパインパンツ



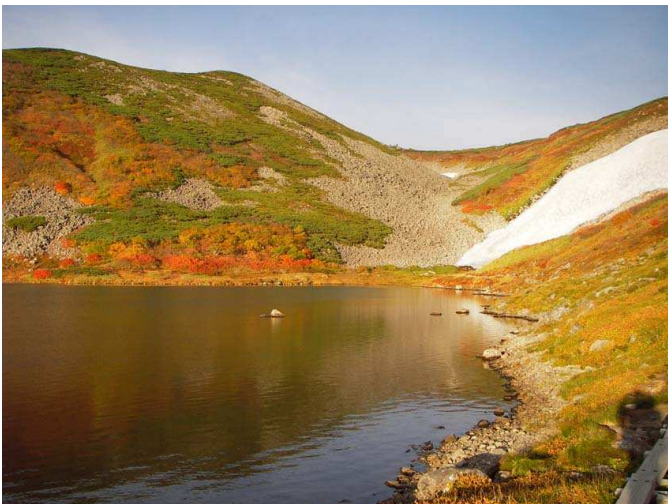
~とにかく軽い!~

朝7:00に登山口を出発。1時間ほどでカムイ天上に着き、谷を挟んだ前方にトムラウシ山の姿が現れる。快晴の青空が迎えてくれる。登りで無風状態では体温も上がり、直射日光も手伝って夏山のようなコンディションのためニュウモラップの出番はない。アウターはドラウトセンサーでしばらく登る。コマドリ沢のアップダウンを抜けて前トム平を10:20に通過。山並みの紅葉とトムラウシ公園を見ながら昼前に南沼野営指定地に到着。山頂アタックの前にここで昼食を摂る。

快晴で日差しがあるとはいえ北海道で標高2000mを超える山頂はどのように気候が変化するか分らない。念のためアタックの前にニュウモラップをアウターとして着用する。驚くほど薄くて軽い。山頂までは南沼から30分ほど。残りわずかのところでガスが出てきて日差しも消え、眺望が全くない状況となった。山頂は完全にガスの中であった。日差しを感じなくなると一気に体感気温が下がる。山頂へは長居せずに縦走路をヒサゴ沼へ向かう。20分ほど下って遭難事故の記憶が新しい北沼へ降りたときには視界も開けたが風も強く、日差しもなく、本来なら体感気温が下がって寒気を感じる状況になったのだがニュウモラップのアウターは快適である。全く寒気を感じることなく、そのため体力の消耗が非常に抑えられていると実感できる。

ヒサゴ沼へ着いたのは15時をまわっていた。ヒサゴ沼の大雪渓は夏でも消え去ることなくかなりの面積が残っていた。このまま万年雪となり氷河と化すのではないかと思うほどである。その雪渓から野営地へ向けて風が吹き下ろすのである。夜半から風はますます強くなり、沼の水しぶきがフライシートへ飛んできているようである。テント内の気温は3前後である。

翌日、テントの外に出ると野営地の土はほぼ全て凍り付いていた。沼の縁も凍っていて土の部分は霜柱が立っていた。あまりにも寒いのでフリースの上にニュウモラップを着用し、とにかく保温につとめて復路を進むことにした。この日の雲は高く薄い。視界は良好で遠くの山々も雲はなくその姿をくっきり現わしている。風が強くてニュウモラップの威力に助けられたのは北沼付近である。この日の北沼は昨日よりもはるかに強風で肌を露出している顔や手の指などを寒風が直撃する。それでも体のコア部分はニュウモラップに守られて強風にさらされても全く平気である。



再び山頂へ立つとそこは昨日と全く違う風景が待っていた。旭岳の表大雪エリア。十勝連峰、東大雪エリアの全てを眺めることができ、名山にふさわしい眺望が開けていた。ピークを降りたところで昼前だったが気温も上がり、薄い雲も晴れて日差しが出てきたのでニュウモラップを脱いで下山することにした。

